

# ぜひご受講ください!

社会福祉法人経営にかかわる皆さん!お仕事は順調ですか?楽しいことも辛いことも、達成感を感じずることもあることでしょう。初代校長浜岡正好先生の跡を継いで2代目の校長となった垣内です。

社会福祉法人経営をめぐる環境はますます厳しさを増しており経営責任は重くなるばかりです。社会福祉法人とは、そもそもだれに向けて何の目的のために事業を行う法人なのでしょうか。この学校は、社会福祉事業とは何か、私たち民主的法人はどのような経営管理を行っていくべきか学びます。

この学校では法人経営・管理の在り方を体系的系統的に学ぶことができます。第1に、「プレゼンテーション」

「グループワーク」、「講義」の三位一体のプログラムを通して、管理職としての学ぶ力、考える力、経営する力を習得します。第2は、広い視野、長いスパンで経営管理する力を習得します。そして、第3に、こうした学びを周りに伝え継承されることを追及しています。

入学式、講義、ゼミ、フィールドワーク、卒論発表会、卒業式を行います。受講者同士で交流し学びあいます。後輩の学習支援にもかかわっていただきます。時には力不足を感じることもあるでしょうが、講師、受講者、先輩受講者がともに励ましあって学びます。民主的な社会福祉法人経営を担っていきたく願っている皆さんのご入学を心からお待ちしております!

管理職養成学校 校長 垣内 国光

## 社会福祉経営全国会議 管理職養成学校ディプロマ・ポリシー

管理職養成学校は、権利としての社会福祉を追求する民主的法人経営の担い手づくりを目指し、地域要求を見極める力、先を見通す力、経営戦略を組み立てる力、実行する力を育てます。そのために、受講生が修得すべき力をディプロマ・ポリシー(修了の基準)として以下のように定めます。

### 知識・技術

—総合的判断力を養うために蓄積すべき力

- 社会福祉法人を取り巻く情勢について、歴史や現状分析を通して理解します。
- 自法人の経営課題を理解したうえで、他法人・他業種の経営状況についても学び、社会福祉経営に関する識見を深めます。
- プレゼンテーションを通して自分自身の言葉で「わかりやすく伝える」・「理解を促す」・「相手の心を動かす」技術を身につけます。

### 共感力・発信力

—多様な人々との交流を通じて、他者の考えを受け止め、自らを表現する力

- 他法人の管理者とのネットワーク構築に努め、よりよい社会福祉経営実践に活かします。
- 「共感し合う」・「意見を引き出す」・「意図を伝える」など、コミュニケーションを通じて、組織の方向性を導き出します。
- 地域住民や企業を含む諸団体との共同により、新たな福祉ニーズを耕し、必要な社会資源創出に努めます。

### 思考力・判断力

—自組織や地域の課題を多面的に捉え、創造的に考える力

- 社会福祉法人を取り巻く情勢の現状に対して、自身や自法人が何をすべきか分析し、どのような変容が必要か判断します。
- 他法人や他業種からの学びを基にして、自法人の財務状況を含む経営課題を分析し、組織運営に活かす力を身につけます。
- 当事者や地域住民の要求を実態から捉え、その要求を根幹に据えた中長期事業計画を作成します。

### 決断力・実行力

—民主的法人経営の前進を目指して積極的に挑戦し、やりきる力

- 個々の力を引き出し、組織的な意思決定ができるように集団を導きます。
- 自法人の理念や地域福祉の観点、管理者自らの意志を反映した事業戦略を実行します。
- 当事者や地域住民との共同性を礎として、権利としての社会福祉事業を推進します。

Diploma Policy



Eメール



jimukyoku1@f-zenkoku.net



一般社団法人 社会福祉経営全国会議

連絡先/〒543-0045 大阪府大阪市天王寺区寺田町2-5-6-902 電話06-6772-1360 Fax06-6772-1376  
ホームページ/https://www.f-zenkoku.net/

# 一般社団法人 社会福祉経営全国会議 管理職養成学校

社会福祉法人制度改革がすすみ、公益性と非営利性を基本とする法人のあり方が問われるなか、コロナ禍は社会福祉事業の公的基盤のよろさをうきぼりにしました。あらためて、この国に暮らす誰もが健康で文化的な生活を営む権利を保障されることの大切さが明らかになりました。

そんな今だからこそ、利用者・職員・経営を守ることを軸に、人権保障としての社会福祉事業を発展させるための管理運営が求められています。

社会福祉経営全国会議は、それを担う次代の管理職をともに育てることを目的に、受講者・法人・事務局が目標を共有し成長するという、新たな形の実践的な学校「管理職養成学校」を開講いたします。



次代の管理職をともに育てる学校 —  
「学びの航海」にあなたも  
出てみませんか。



Start

権利としての社会福祉・社会保障の追求と事業の推進を目指す、社会福祉経営の担い手を育成します。

Point  
1

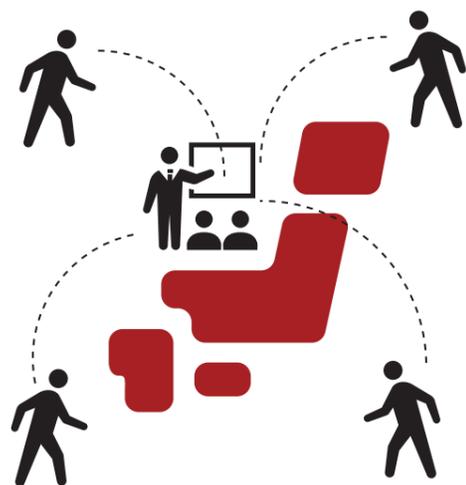
## 管理職養成学校の卒業生が 全国で活躍しています

社会福祉施設経営者同友会が2013年から始めた管理職養成学校。これまでに修了された方は180名を超え、それぞれの障害者施設、保育園、高齢者施設など多くの社会福祉事業所で管理職を担い、活躍しています。

2013～2024年の管理職養成学校受講者

法人数 60法人 受講者数 187名

次世代育成がどの法人にも共通する課題となり、小規模法人が独自では取り組めないということも背景に、共同の幹部育成事業として開校しました。社会福祉経営全国会議結成により、この学校事業が引き継がれることになりました。



Point  
2

## 管理職養成学校の役割は ここにある

見極める力、見通す力、戦略を組み立てる力、実行する力を重視し、管理職として求められる知識・技術・資質を育てるものとします。



数字を読み、経営分析をしたうえで、法人と事業の今後を語る人材の育成



社会福祉法等情勢の本質を正確につかんだうえで、法人と事業の将来ビジョンをもてる人材の育成



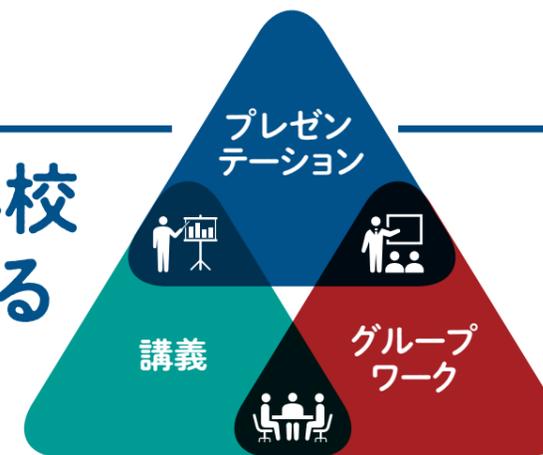
公的責任の後退が広がっている状況の中、創業者世代から、次の世代へと「理念のバトン」を手渡す



管理職養成学校は、受講生の変容をうながすだけでなく、職場と社会の変革も見すえた大きな志を持った学校です。

Point  
3

## 管理職養成学校の講座における 3本柱



管理職養成学校の講座は、基本的に①「プレゼンテーション」、②「講義」、③「グループワーク」から構成されています。

毎回のプレゼンテーションでは、限られた時間内に、原稿を見ず、自らの言葉で「伝え」「理解と共感」をうながすトレーニングを行います。



地域、事業種別、職種などを考慮してゼミ(クラス)が編成されます。

6か月の学校生活を送る基礎集団として、毎回のグループワーク、最後のゼミ発表までをともに過ごします。

講座を港、講座と講座の間を航海ととらえ、航海日誌をつけていきます。ゼミ仲間と学校事務局員とも共有し、荒波の航海を乗り切る励みとします。



Point  
4

## 送り出し法人の役割

1 管理職養成学校の学びには、受講生を身近で見守り、支える人の存在が欠かせません。

2 法人内で受講生の学習や仕事との調整、精神面も含めて見守り、支えるサポート役(サポーター)をおいてください。

3 「法人の理念と歴史を学ぶ」、「財務諸表を知る」、「中長期事業計画を作る」などの課題に取り組むときは積極的に受講生の力になってください。

4 入学から修了までを連続した在学期間として位置づけ、開校式と修了式には、受講生の成長とともに確認するため送り出し法人からも必ずご参加ください。

